



2022年度夏季手当における総括議論



7月9日、三多摩支部は八王子安市民会館展示室にて「2022年度夏季手当における総括議論」を行いました。

先月6月7日、JR東日本会社は2022年度夏季手当について、「基準内賃金の2.3ヶ月」と回答しました。参加していただいた各分会の皆さんからは「JR東海よりも0.1ヶ月上回ったけどもっと欲しい」、「去年より多く出ている気がするが、それは昨年が2.0ヶ月という最低の回答だったからだ」、「昨年カットされた分が戻っていない」、「まだまだ足りない、生活できない」という声が聞かれました。またグループ会社の一つであるJESSの仲間からは、「昨年(2021年度)は2.2ヶ月だったのに今年(2022年度)は2.05ヶ月で下がっている」という悲痛な声が語られました。

我々、輸送サービス労組は「全ての仲間のために」テンポラリースタッフへの特別加算金やグループ会社で働く仲間への処遇改善などの要求項目から大きくかけ離れた回答に席上妥結とはならず、以下の労使確認事項を踏まえて「妥結」としていません。

<確認事項>

- ① 鉄道が未来永劫発展していくためには労使議論が必要であり、双方の立場を認め合いつつ、議論に踏まえ認識の一致を図っていくこと。
- ② 黒字が達成した際には社員への還元を実施すること。
- ③ 社員が未来を展望できる労働条件の確立を図ること。

**本社経営陣と交渉できるのは労働組合だけ！
あなたの声、輸送サービス労組に届けて下さい!!**